

【意見】

1月15日に、沼田市子育て支援ネットワーク推進協議会主催で映画『うまれる』の上映会が実施されることを知りました。この映画は「子供は親を選んで生まれてくる」という胎内記憶をモチーフに、命の大切さ人との繋がり、"生きる"ことを考えるものだそうです。命の大切さや人との繋がりを考える事に異論はありませんが、科学的な根拠を欠く胎内記憶を利用する必要などありません。ましては、胎内記憶を広める池川医師については、根拠のあやふやな経皮毒といった恐怖で妊婦を脅しておいてデトックスといったエビデンスの無い治療法を勧めるような医師との批判もよせられています。このようなあやしい胎内記憶を前提にした上映会に事務局として行政が関わることはとても危ういものだと思います。なお、池川医師の著作「胎内記憶」は第18回日本トンデモ本大賞にもノミネートされています。また、「子供は親を選んで生まれてくる」という思想は親を選べないこどもに責任を押しつけることになりかねない危険なもので、児童虐待の防止、救済にも悪影響を与えかねません。このような映画の上映は子育て支援になどなりようもないと思います。

男：50代：沼田市在住

【回答】

沼田市子育て支援ネットワーク推進協議会は、昨年10月に群馬県地域づくり協働モデル事業として認定を受け発足しました。その目的は、「各子育て支援団体の活動やニーズを調査しネットワーク化することで、情報を広く知らせ 共有し各団体間の交流を図り、子育てしやすい環境を整えること」であり、目的に沿って計画を立て進めているところであります。

今回の「うまれる」の上映につきましては、昨年11月に「児童虐待防止推進月間県民講座」として上映された実績があり、その評判を見聞した協議会委員等からの要望により計画実施したものであります。

内容は、ボランティアでの募集に応募した4組の夫婦の出産に関わるドキュメンタリーで、ありのままの内容を映像で記録し、「命と向き合う人たちの姿や、出産に立ち会った家族のものがたり」となっています。見終わった人たちが自分なりに自由な感想を持ち、改めて命の尊さや自分自身の親子関係、地域とのつながり等に思いを巡らせていただき、子育てしやすい環境を整えることに少しでも役立てられればと考えております。

今後も、皆様のご意見をお聞かせいただきながら計画を立て実施していきたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

担当：健康福祉部子ども課